

特 101
528

教徒叢書
第壹編

真心の道



始



教徒叢書
第一編

真心の道

3. 4. 15
内交

社告

金光教徒

毎月三回発行
購読料一年壹圓

△道に入らんとする人 金光教を信する人
教會所に遠き人 忙はしき人
△すべて道を慕ひ求むる人は本日只今本紙
の購読を申込まれよ 善は急げ

△酒 煙草 遊興 奢りたる交際 身分に
ふさはぬ調度 必要なる生計費に關せず
して一ケ年壹圓を節することは甚た易し
△送金は振替にせらるるが相互の便利

岡山縣金神社
金光教徒社
〇八九八阪大座口替振

眞心の道

教徒叢書 第壹編 眞心の道

金光教徒社編

【お道の本】 お道の事を記しある書物は千万金にも換へ難きもの
と思つて自分もありがたく頂き常に懐るにして居つて人にも上げるの
であります教祖様の生命かけの御修行に依りて立ちしお道の事が記さ
れてありそれを實行せば金にも位にも換へられぬ徳を頂く事の出来る
のであると思ひますれば御道の本の出ましたものは直ぐに知らして貰
ひ度いのであります。佐藤先生夫人。

【天地一新の教】 天地開闢以來初めて開けし世界第一大氏神天
地金乃神様天下無二廣大の御道開化御一新の御規則と同然舊習の事を

廢し更に生れ替りたる氣で初め小兒の心に相成るべし。初代白神先生。

【御神誠を反古にせよ】

皆十二ヶ條(神誠)の摺物を頂いて難有いといつて掛物にして床の間に懸けて置いたのでは役に立たぬ一ヶ條守れば一ヶ條に點をかけた一ヶ條守ればまた一ヶ條に點をかける様にしてあれは反古にせねば役に立たぬ。四神金光様。

【吾を信じ神を信ぜよ】

教祖の神が常々「昔は十年一昔といひしが今は三年一昔である三年の間思ひ定めた心を動かさずして打續いて信心させて戴き三年又三年と合せて十年の間撓まらず怠らず信仰を續けたならば我ながら我心を喜んで祀れ」と教へられた一度思ひ定めた心が時々變りては吾心で吾心の保証が出来ず我が心で我心が信ぜら

れぬ様な心を以て天地の神の御心を動かし奉らうとは以てもない心得違ひである。佐藤先生。

【汝自身を信ぜよ】

信心とは語を換へて謂へば自分を知ると云ふ事でありまして自分自らに對する信心でありますよ。現今の自分は何等の價値ないものであつても我れは神の氏子である吾人は元來神と一致になり得られる身の上であるといふ事を自覺つてこの價値を磨き出し尊き神の本性を顯はす様に努めるのが即ち我が道の信心であります。畑先生。

【神在す家】

「信心は家内に不和のなきが元なり」との神訓は神の氏子が神の内輪となりて神の在す家の親となり子となり夫婦兄弟となりて嬉しく楽しく世渡りするやうにと望ませ給ふの御神意なり。佐藤

先生

【何がまごころ】 天地の神に偽りなきものを疑ふならば何がま

ごころ 初代白神先生

【何時も神の前】 我教祖の神が病者の祈念に出ずといふ御主義に

は何いふ譯があつたかと云へば此の天地金乃神と稱へ奉る大御神は取

次が病者の枕頭に往きて撫摩り御被修行禁厭をなさねば御徳が顯はれ

ぬといふ様な徳低き神ではない願ふ氏子の心に眞があれば枕頭で祈念

を致さんでも御徳を授け給ふ神である其故出て行く必要はない又病者

祈念の願に應じ出行きて祈念してやるならば行きたる先は喜ぶであら

うが留守へ尋ねて來たものは遺憾に思ふであらう神は天地何れにも在

するなれど神の前に立つ取次が居らざれば神様をも留守のやうに思ひ

助かる人も助からずして歸るのである然らば右の手が長くなれば左の
手が短くなる道理が何れへか偏する事になる我神様は平等に守らせ給
ふ御神意であるから何時参つても神の前に在すといふことが極つて居
れば東西南北四方八方の者が皆寄來て平等に助かる故に病者の祈念
に出行かぬとなされたのである 佐藤先生

【吾がための信心】 教師が各地に出て難義しながらでも道を弘

め教を傳へたいといふのも世の中の人々に信仰の眞を知らせて共に過

ちななき様にして上げたいといふが爲であります然るに教を受ける皆様

が他人の爲でもある様な心持で居たのでは教が何の役にも立たなけれ

ば又骨を折つて丹精を凝しても何の利益にもならぬ 畑先生

【只御蔭を受けよ】 賽銭の多少にも依らず有るも無きも御變り

なく御祈念下され日を限りて御齋傳御理解あり謹んで聽聞致すべし恨み障り等を申さぬお道なるを押尋ね問ふ人あれども大神様には是れは申さずとも病氣さへ治れば宜しからうかの又彼此申せば病人も氣に致すべしと宣り給ひし初代白神先生

【心に求めよ】 信心は形に求むるにあらずして心に求むるなり心を外にして形に求め形を學ばんとするが故にむづかし畑先生

【時間は生命】 時間は生命なり予は時間を約するに一は天地日月に約し一は世間公衆に約す佐藤先生

【家の病の元】 下女をおいたからとて萬事下女任せで奥さんやお内儀さんといはれる人が素知らぬ顔付で見居るやうな事ではなりま

せん色々な御無禮お粗末が重つて來ては家のメグリ家の病の元となり
ます近藤先生

【天地の開ける音】 御理解に今天地の開ける音を聞いて目をさ

ませとあるこの天地の開ける音とは如何な音でありませうかの音は
教祖御時代にのみ限られて今日は聞かれないのでありませうかこの天
地の開ける音とは他でありませぬ我教祖の傳へ給うた御教であります
御神言であります畑先生

【信心第一の工夫】 眞正の信心即ち各自に道を體得して爾も唯

一の神徳の上にもろれ美を飾るやうにするのはどうしたら出来るの
であるかろのやり方に就ては我が教祖は神誠神訓又ろの他の御理解等
に於て縦横無盡に教へられてあります今之れを私が最も手近き最も

賭易き一言で話して見ると先づ「自ら欺かぬ」の一語であらうと思ふこの短簡な陳腐の一語何んでもないやうであるがしかしなから之れは士君子と雖も却々容易の事ではないお互は日々の行爲の上に自ら欺かざる行爲が出来て居るですか自ら欺かざる心を有つて居るでせうか考へて御覽なさい昔の歌にも

なきなぞと人にはいひてありぬべし

心の問はゞ何とこたへん

お互は誰であつても自分の過ちを人の前で言ひたくないさういふことは致さぬと口で打消すことは出来るけれども實際あることであるとして如何に打消さうとしても心は許しませぬ子供が門口で何かいたづらをしてそれを発見られて誰が斯ういふ事をしたのかと訊かれると私が爲た

と言ふ者は少くは知らぬと言つて居るが其の知らぬと言つて居る中に實際やつた子供の顔には不安の色が現はれて居る小さい子供と雖も知らぬというて表は繕はふとしても心に不安の念があつて其の不安の心が顔に現はれて居るといふことは自ら欺くことが出来な

い證據である爾もそれを人の前で飾つて居るといふことは即ち自ら欺いて居るといふことになるのである故に日々自分の心に問うて一點の曇りもないといふやうにするのが即ち道を體得する最も切要なる近道であらうと思ふ

然らば自ら欺かすといふ事のやり方はどうしたならば宜しいかといふと私は御答する所は神様と離れぬのである又神様と吾人の心との間に隔て心隠し心を有たぬのである神様を離れぬといふに就て御神訓に

信心する人は常に守を心に懸けて居れよ

と教へられてある如何なる人でも神徳の中に生されて居らぬものはないのである神を信する者も信せざる者も念ずる者も念せざる者も自然界一切の物は悉く神徳の中に居らぬものはない神徳以外に出て居るものはないお互の身體は生れ出ると共に神徳の中に活されて居るのであるけれども兎角の心が氣儘勝手に流れて神といふことを忘れて了ふこれが自分と神様と離れるといふのであるそこで形が神徳の中に生かされてあるが如くに我が心の底に神といふことを如何なる場合にも忘れてはならぬのである 〓 畑先生 〓

【神徳と人徳】

人間の智慧といふものは善にも悪にも働くものである又この智慧の人間のみ働く人と人間以外即ち神に向つて信仰と

なりて働く人どがある智慧といふ者は働かしやうによつては實に恐るべきものであるが如何に恐るべしと雖も限りあるものである若常に人にのみ働く者は必ずや何時かは缺陷を生じ心中穩かならず心配をなすに至るといふは人間の常態である位に不足なく物質に不足なしとするも其人の智慧が人間以外に及ばざる時は常に不安心にして不自由を感じるに至るものである然るに人のみに向はずして神に向つて働き得る人即ち信仰ある人は心中些しの不安なく又不自由をも感ぜないのである其人は心中常に豊にして大丈夫である故に教祖は人間は極めて精神の安全と人間界の安全とを併せ計らんには信心と智慧との働きが相合致せねばならぬと訓へられてある人の格式——人格——真正なる人格は如何にして得らるかといふに教祖は神徳を受よ人徳を得よ

と訓へられてある智慧が單に人のみに向ふ時は人格下卑となり易く稍もすれば心中黒雲に蔽はれたる如く事々物々に迷ひを生ずるに到るものであるが一度信心して神の威徳に照さるれば光明赫々として輝き渡り心中の不安は露の朝日に照さるゝ如く忽ち消ぬ失するものである故に神徳と人徳との両全を計らねばならぬのである。佐藤先生。

【強いられてする信心】 眞正の信仰は決して他から強ひられてする譯のものではないお互信者たる者は金光教を信仰して居るが故に據なく斯ういふ風にせなければならぬといふ様な考ではならぬ本來の自己の貴き價値を認めて其の價値を現はす爲めの信仰である然るに世の中には往々據なく信心して居るやうな人もないではない例へていふと本教では「腹立は心の鏡の曇る事」と教へられて居りました。濫り

に腹を立てるを以て本教の汚れとして居るので腹を立てぬやうにせよ心を鎮めて居らんければならぬと教へられて居る所がエ、思々しうてならぬ信心して居なかつたら横煩の一つも撲り付けてやるのぢや腹を立て立など教へられるからマア我慢をしてやる勘忍してやるんだといふ工合に心中に忿怒つて居る人が世の中には随分あるのです其他之に類した例は幾程もある斯ういふ人は信心を他から強ひられて無理にやられて居るのと同然である他から強ひられて無理にやられるのは何事でも中々辛い苦しい到底一人前の人の堪へられる所ではない。畑先生。

【接ぎ穂】 松永教會所の創立者を淺井岩藏といふ師は終に金子明神の神号をさへ賜はりし人生來多病にして宿痾あり初め神徳顯著なりと聞きて黒住教を信仰し後には袴羽織にて信者に招せらるゝまでに至

りしが宿痼は終に癒るざるものとしたり後年感ずる處ありて笠岡金孝
 大人に従ひて信心し初めて大谷なる生神様の御許に参拜したる時教祖
 氏を顧み給ひて「其方は持病は持つた病で治らぬものと断念めて居る
 が根から生へた疾患とても治らぬといふことはないがよ其方は接穂と
 いふことを知つて居らうが如何な頑固い澁柿でも砂糖柿の穂を接いで
 試い今度は甘い柿が實るがよ今日から此方金光大神のおかげの穂を接
 げ如何に其方の病氣でも心配はない全快させて頂かれる」と御理解下
 されたりと。

【遊べ】 神を信する者は遊ばせて頂くなり廣前の奉仕も遊ぶなり商
 賣も遊ぶなり農業も遊ぶなり皆天地の間をうれしくありがたく遊ばせ
 て頂くなり近藤先生

【神も助かり】 この頃泌々難有思ふは彼の安政六年十月二十一日
 の立教神宣なり「此方のやうに實意可憐神信心致して居る氏子が世間
 に何んぼうも難儀して居る取次助けてやつて呉れ神も助かり氏子も立
 行き氏子あつての神神あつての氏子末々繁昌致し云々」この神言如何
 に難有き限りならずや

「神も助かり」とは神教祖によりて助けらるるとの意にあらず神の意を
 知らずして自ら迷ひ苦める世の氏子を如何にもして救ひ助け眞の神の
 氏子たらしめんものをとの切なる神の御思召我が教祖によりて始めて
 抒ぐるを深く喜び給ふ忝けなき親心の表れたる御言葉なりこの御一言
 眞に味ひ見れば我が親神直ちに我れに現れ給ひ「眞に難有の念」油然
 として起り心自らにして眞ならん 畑先生

【まこと】 まことで成就せぬものはなし成就せぬ時はまことがかげたどさとれ 片岡次郎四郎先生 〓

【金光様は発電所】 第一に教祖の神様第二に四神金光様第三に

現の御廣前様と次々に生神の徳を傳へて御苦勞下されてあるの御餘光によりておかげが天下に充滿し不徳の者が祈つても一心頼めばろくに靈驗が顯はれるのである然るを世には左うと悟らぬものがある自分の祈りで御比禮が立つやうに思ふるれをまん心といふのであるまん心は大怪我の本なりと教祖が御誠め下されたまん心をするから第二のおかげが戴けぬのである

これを譬へれば家々に燈つて居る電燈と同トことであれば発電所といふものがあつてろこで電氣を起し家々へ電線といふものによつて送電

するのである金光様は発電所で信者は家々の電燈であるろの電線はお手續といふものであるろれをお手續も忘れて了ふ金光様の御餘徳によるのだとも思はぬやうになつてはどうしておかげの受けられやう筈はないのである 〓近藤先生 〓

【拜むより先づ教】 信者の中には唯ポンポンと手を拍つて鯉か

何かを呼ぶやうな心持で神様を拜み二分や三分のお禮を濟すと急な用でも思ひ出したやうに忙しう歸つて了ふ人があります又中には御利益顯著な神様と聞き傳へて參詣はしても只病氣直しや災難よけのためと思ひ教を聞かせて頂いてなるほどと會待する人が少い教祖の神は拜むよりも先づ教を聞けよと教へ下されてあります 〓近藤先生 〓

【吾々の信心修行】 元來人の心は形のないものでありまして怡

も水の流の如く時々刻々に移り變るものであります。それであるから時には嬉しい事に出遭つて喜びました時には悲しい事に出遭つて心を痛めるかゝの如く時に應じ處に従つて暫くもシツとして居る事の出来ないが我々の心の状態であります。がしかしながらかく時々刻々に移り變りゆく中に自ら清らかに静かに保つ様に努めるのであるが吾々の信心修行であります。世の中の人が或は神の前に坐つて十度二十度の祓を唱へるも教會所に參るのも皆それが爲めであります。固よりこの道では祈る時には祓を唱げなければ靈驗が受けられぬ。廣前に參つて來なければ信心が出来ぬといふのではありません。祓を唱へるのも廣前に足を運ぶのも如何かして時々刻々に移り替る心を静め濁つた思ひを清らかにしやうといふのが爲の工夫でありましてこれが出来さへすれば何も手間暇を

費してわざ／＼祓を唱へるにも及ばねば廣前へ參る要もない。繕仕事をしなからでも神に祈りを捧ぐることは出来るのであります。然るに世の中の人には神に祈るには祓を上げなければならぬものだ。廣前に參らなければならぬもの。だとのみ考へ違ひをして祓を上げながらも尙心を清める事が出来ず廣前に坐つて居りながらも尙心を静める事が出来な

ぬ。畑先生

【本來の誠を顯せ】

善い事は何人も善いと感得して居るに違ひない。また悪い事は何人も悪いと知つて居るのであります。人の心の奥に立入つて考へて見ますれば如何なる人でも善い事は爲なければならぬ。悪い事は爲てはならぬといふ考は有つて居るのであります。これが吾人

の肉慾人慾の爲にその作用が晦まされて了ふのであります故にこの蔽はれ晦まされて居る本来の誠を顯はす様にとて教へ給ふたのが即ち我が教祖の御教であります。●畑先生●

【身信心】 四神金光様は「信心は身信心トヤ」と教へ下された身信心といふのは身慾身勝手みよくみがつての信心しんくといふ意味ではありません信心は自分自分の心相應こころはうちからさうちから力相應ちからのものぢやとの教へでありますすれでありますか
ら信心は親子おやこと雖も夫婦兄弟ふうふけいけいと雖も皆別々みなべつべつであります親が熱心であるからとて必ずしも子が熱心であるといふ事は出来ない子が熱心であるからとて必ずしも親が熱心であるといふ事も出来ない夫が神徳を頂いて居るからとて必ずしも妻がその通りの神徳が頂けるといふ譯はない妻が神徳を頂いて居るからとて必ずしも夫がその通り神徳が頂けると

いふ譯でもない兄弟親戚朋友皆その通りであつて皆銘々別々でありますすれと同時に信心は自身自身の心から出て自分自身の徳を得る爲めにするのである他に爲てあげるのでもなければ他から勧められたが故に據ろなくするといふのでもない自分の心から眞底打出しての上でなくてはならぬその代りその精神であればその徳は他の上に加はるのではなくして自分自身の上に加はるのであります然るに世には往々何か人の爲にでもする様な心持で居る人がある例へばそんな難しい信心ならば私共には到底も出来ませぬといふ人があるがこれは全く人の事の様に考へて居るからでありますお互ひに咽喉が渴いて雨も水を求めやうにも水がない時には岩を絞つてでも水を求めやうとするではありませんか腹が空いた時には如何な困難を凌いででも如何な粗末な物でも之

を求めて食ふではありませんかこれは我が生命を繋ぐ上には是非ともな
 くてはならぬものであるからであります吾々の信心も亦我が生命の爲
 である人としての眞の生命を繋ぐ爲めに信心は片時の間も缺く事の出
 來ない大切なものである然るに何か人の事でもするやうな暢氣な事を
 云うて居るのは此我生命の爲なる「身信心」なる事を悟らぬ故でありま
 してそれでは逆も信心の徳は享けられぬ皆様が教會所に參つて教を受
 くるも皆様の「身信心」の爲であります〓畑先生〓

【心の中心に宮】 心に神の御名を刻みつけ心の中心に神の宮を建て
 よ〓佐藤先生〓

【其場遁れの信心】 我が心さへ誠であれば言葉の上には整はぬ
 所があつても飾り氣はなくても一言のお詫も一言の願ひも神は直にお

受下さるのであります我が金光四神様は「目前目前のおかげでは末の
 安心が出来ぬ」と御理解下されましたが只目前目前の事を好い摺梅に
 取繕つて居たり其場其場の一時逃れの信心をして居ては決して末々ま
 で變らぬ安心を得る事は出来ません〓畑先生〓

【神在すが如く】 彼の『論語』の中に「祭ることを在すが如く神祭る
 こと神在すが如し」といふ語がありますがこれは孔夫子が神なり祖先
 の靈なりをお祭りなされて居る處をお弟子達を観てかく記したもので
 即ち孔子が神を祭つてござる處を拜すると如何にも神様がそこに立現
 れてろのお祭をお享けになつて居れる様に見ゆるといふ意味でありま
 す神は固よりお姿のなきお方であるけれども眞に神茲に在すといふ敬
 虔の念厚き孔夫子の信念から出て祭らるゝが故に神が洋々乎として現

れ給るが如くに外觀からも見ゆるので是點が最も大切な處であります
 一昨年でありました私が大教會所に參拜致しました節或朝お廣前に
 参りますとまだ御廣前金光様はお出ましになつて居りませんでした暫
 くお待受け申して居りますと臆て金光様は隔ての襖を開けてスとお出
 ましになりましたして靜かに神前にお進みになりました私は金光様の御拜
 の御様は如何であらうかと思ひましてろの遊される一舉一動を謹んで
 拜して居りましたが神前にお進みになりますと稍暫くちつと靜座して
 氣をお鎮め遊されてゐらせられる様でありましたすがやがてお頭を下げ
 て御拜をなされたこと少時ろれからお頭をお上げになりましたして御神座
 に對して又暫時ちつと御眼を注いでゐらせられた様でありましたすがや
 がて又靜に御拜をなされてろしてお机前にお就きになりました事柄は

只これ丈けでありますすが此時私は千萬言の御教を蒙るよりも難有く感
 じました何故かと謂へば所謂神在すが如しでありましたからであります
 す別に装束を着てお祭をなされるのではありませぬが神様に御拜をな
 される様から御神座に對してござるお姿に至るまで如何にも神様と直
 々にお話を遊され直々に御對顔あらせられて居る様で私にはどうして
 も斯様にしか拜めなかつたのであります是といふのは外ではありませ
 ん眞に茲に神が御鎮り遊してござるとの金光様の御衷心が表に現れたか
 らであります「畑先生」

【共に嬉しく】

神様への御恩報トは世界限なく金光大神の教を傳
 へて親無子一人もないやうにと努めるのである世の中には廣く大
 天地に住みながら五尺の軀一つ容れるに場所なきまで心を狭うして居

る同胞が如何程あるかわからぬ一日片時も早く是等の人々に神の教を傳へて廣い天地自由な神徳の中で共に嬉しく有難く暮したい近藤先生

【遺言は今日今日】

私がいふ事は常に遺言と心得てをれ世間に

遺言といふは死際の精神の作用が疎くなつてからのが多い其れでは思慮は盡されぬ加之に『障子一重がまゝならぬ人の身ぞ』今日今日誠心を盡して教祖の御爲め皇上の爲めに最も善く働かせて頂く精神で實行してをるのトやから今日今日いうてをる以外に遺言すべき事は何も無い佐藤先生

【徳は蓮葉の露】

信心に依りて徳を受くるは蓮の葉に雨を受け

て溜る如し一旦の心得違より徳を墜すは蓮の葉に受けたる水僅かの傾きより全く落ち去り跟をも残さぬが如しお詫申さば直ちに許され復た徳を頂く事破れざる蓮に受くる雨のやがて満ち溢るゝと毫も異らず近藤先生

【道のた話】

自分が信心して居るからには親類や友達にはお道の

事を話しておかねばなりません私には「親類には金光様を信心して居りますが私は一向知りませぬ」など云ふ人にはさう云ひますあなたは親類が信心して居る道の事を他人が非難悪口しても黙つて聞いてお住んでいすかるれでは御親類に濟みますまいこれから話をして上げますからよく聞いておきなさいと云つて道の話をして上げます佐藤先生 夫人

【徳をいたゞく奥儀】

神様からお徳をいたゞくには教祖様の御

神訓を實行する以外には何も奥儀はない』ある徳が頂きたいと焦心て
 をる女がお廣前に參つてお尋ね申上げた時右の如くお諭しになつたと
 承る神徳を頂くに秘密があるやうに思ふ者の悟るべき事である。御
 廣前様。』

【信心はめい〜】

本教には祈禱とか禁厭とか云ふ事は一切致
 しませぬ道の立方でありまして教師は神より云へば神の前立氏子より
 云へば神のお取次でありますから信心は皆我心でせねばなりません
 ぬ。近藤先生。』

【休んで居て損はしませぬ】

去三日より風邪にて休み居りま
 したが今日は參拜させて頂ける日であるから寢床から起きて參つて來
 ました日増さり時増さりと云ふが其通りである今も御廣前へ參つて來

ましたが此通り起きて居て何の事はありませぬ他人に知れぬ間に快く
 して頂ければそれがお蔭であります休んで居て損はしませぬ風邪で困つ
 て居る者が世間にはなんばう居るか分らぬ等の人々をどうぞ助け
 て下さりませと寢床ながらに願うて居りました便所へ行ける間は神前
 のお燈明をようせぬやうな事ではならぬ自分の用はし乍ら神前のおつ
 とめが出来ぬと云ふ事はありませぬ朝夜が明けてからお禮をするのは
 氣持がわるくて仕方がありますね氏子の祈念は夜の間にして了はねば
 氣がすみませぬ腰から背中が痛んで誰にも知らせはしませぬが永
 い病人はさす苦しい事であらうと一層御祈念に力が入ります病氣はし
 ても私であつてまあよいと思ひました恐れ乍ら管長様 金光様近藤先
 生や畑先生内の先生等が御病氣でもあつたら重なお役がどうなりませ

う又若い者等でも夫々多くの人を預つて御用をして居れば病氣ではつとまりませぬ内でも老人や子持ではこれも困る私も少しばかりでも信者があるがこれは寢床の中でも御祈念は出来ると思ひましてありがた

い事でありました神様のさして下さる事は如何なる事でも差支にはな

らぬものであります。佐藤先生夫人。

【難義があるほご愉快】。一日修行の事に就いて近藤教正にお質ね申したとき数々とお話のあつた中に「其頃と今とは心が違ふからな今の人の修行は己をおしてするので疲れが出るとても久しうは續かぬ自分たちのしたのは心の底から止むに止まれずしてさせて貰つたので

あるから難義があればあるほご愉快で有難くなつたものである」

【眞實の心一つ】。本教に於ての祈りといふ事は豫て教へられてあ

る如く別に儀式を求め用はないのでありまして急ぐ時には寢床の裡便所の裡から祈つても直に神に通つて靈驗を蒙ることが出来るのであります。固より祭典といふことになる別理由によつてくれぐれ一定の儀式が備つて居るのであります。吾人の日常の祈りにはるんな必要はありませぬ唯眞實の心一つで祈ればよいのであります

故に我が教祖も「如何に有難さうに心經を上げる大祓を上げると云うても心に眞がなければ神に嘘を吐くも同然トやへばり聲を出したり節を付けたりするには及ばん地聲で人に物を言ふ通りにして拜めよ」と

さへ御理解下されました。畑先生。

【神の御聲】。神は聲もなし形も見えずと仰せられてあるがなき神の聲を一度でも二度でも眞實聞いたものでなければ確立不動の信念は

立たぬ近時の教養ある青年がこの信念を定め得るならば所謂鬼に鐵棒
 であるも切に其事を思ふるに至ると今日迄の教師は何と云つても一
 つの握つて居るものがあるから幾ら學問の力を以てしても犯されぬ所
 があるうれではるの一つのものを傳へる道があるか傳へる事の出來ぬ
 ものは宗教ではないと云ふ事にもなるであらうが今日迄は幸に教祖よ
 り又先師より與へられて來たのであるがどうして傳へると云つても智
 識や學問を以ては如何ともする事は出出ぬ矢張り信心より外はないと
 云う事に飯する。●畑先生●

【信心のつちかひ】 神様は信心の田畑は無論のこと鋤鉄鎌の諸
 道具までもお與へ下されてありますけれども氏子が其の心して勵まね
 ば神徳の實一粒も稔るものではありませぬ。●佐藤先生夫人●

【心の守り】 我が神の御名を心の中に刻みつけるならば天地金乃
 神生神金光大神の宮を心の中に造り心の中に我神が鎮りますことにな
 るので即ちこれが守を心に懸けよとの御事である他の神佛の守の如く
 錢を以て買求めて袋に入れ首にかけ腕に巻き腹に巻いて居るのでない
 から今は此守を外しておかう今は此守を懸けておかうといふ譯には參
 らぬ心に刻みつけてある御名が心より消え失せたらば其時此守は外
 れて仕舞うのであるこれを落さず外さずいつも心に懸けて居ればこの
 守は火にかけても焼けず水に入つても溺れず一歩遅るれば大難に遭ふ
 べき所を早うしたために其難を免れ一歩進めば頭を打つべき所を一歩遅
 れたために頭を打たないといふやうな事は心の中に親神様の守が懸つ
 て居ねば得られない。●近藤先生●

【中垣を破つて】
 或る年頃の娘を持つた家があつたが仲介するものがあつて直ぐ南隣の家に嫁し附けました其後實家の母が病氣にかゝり餘程重体との事で日々幾度となく娘は看病に行くのに表へ廻ると道も遠くなり近所の人は固より道行く人の眼にも立つて何となく物憂き心地する處から一日夫に向つて何卒裏の中垣を破つて道をつけて下されと頼んだ處が夫の言ふにはろれはいと易い事なれども今年より三年の間は北は塞りであるから塞りの所に向つて垣を破り道をつけたいすると如何な崇りがあるかもしれぬと道をつけてくれぬゆる餘義なく元の通り表へまはりて母親の看病に心を盡して居つたが或時實家の親に此事を話すと父親のいふにはなるほど曆の上では三年の間北塞りと書いてある如何にも尤の事であるしかし其方の處から道をつければ北

へ向ふ故崇りがあるかもしれぬるれではこちらから垣を破つて道をつけてやらう其方の處からは北なれどもこちらからは南であるから差支はなからふと遂に父親が垣を破つて道をつけたり娘も二度の處は三度三度の處は四處と親の看護に心を盡すことが出来たこの話がある我々の塞りは只三年位ではない又北方丈けでもなかつたのであります心から永久に八方塞りとして垣一重向ふに親神様がましすすにもか、はらず其親を知らねば其親の思召は尙更分らなかつたのでありました
 こゝに教祖御出現遊ばされて其方から垣を破ることを得せねば此方から破つて道をつけてやらうと先の話の實家の父親ではないが向ふから神と人との中垣を打破つて道をおつけ下され大祖神様は可愛い氏子を

お助け遊ばさる、こと、なり氏子は直々に親神様の御蔭を蒙ること、
なつたのであります。近藤先生。

【眞の修行】 嗜な物なりと身の分々に喰ひ冬は寒からず夏はあつ

からず寝る時には寝ね親子妻女一家團欒して相親しみ相和ぎ日夜洋々
として悦び暮せさる代りには日常萬般の行爲の上に實意正直を旨とし
て神の教に違はず己が心を顧みて疚しき事のなきやうにせよ。佐藤先
生。

【修行】 金光様御徳いよく進み參拜者益々多くなつて行きますか

らお喜びでござりませうと申し上ると「今やうやうイロハのイの字を
覺れたやうなもので修行はまだこれからであります。イロハ四十八文字
は容易ではありませんせぬからな」と仰せになりました。一を聞いて万を悟

らせられた金光様です。此の通りでありました。まして後々の鈍い者が
油断をして居つてはなりません。西六高橋先生。

【行届く心】 大きい責任には誰でも氣が注ぐ。小さい責任にも氣を注

げて油断をせぬのが責任を重んずる人行届く人である。佐藤先生。夫
人。

【祈りは誠の一念】 我が心に眞實の誠を込めて一度神前に對つ

たならば先づ我が心を押鎮めると共に此處に神おはすなり。我は今神に
直々に御對顔申して居るといふ心を持ち手を拍つにも假染にせず。我が
今拍つ手の音によつて眼に見ぬ神の御扉其の儘に開け我が願ふ心は
生神金光大神の御信仰と一つになり直ちに神に通つて我が祈念我が願
望を成就せしめ給ふといふ深く堅い信念を持つ事が最も大切であります。

す彼の自力や我慢の心が出たり若くは空屋に向つて饒舌つて居る様な心持では如何ばかり形式は整うて居ても神は決してお享け下されぬさる代りに誠一念さへありますれば假令神を奉齋申してない場所に居てもまた急ぐ時には寢床の裡仕事場から祈つてもろの願ひ事は直に神に通つて靈妙なる御蔭を蒙る事が出来るのであります 焔先生

【只頼め】

某教會長任地へ赴任の途次御暇乞のため大阪教會所へ

参拜したる時二代白神先生は次の如く教へられたり「聞けば初めて御結界を勤めさせて頂くのぢやさうな若いに御苦勞ぢやが私が初めて御取次をさせて頂く時教祖様の御理解を載いて覺つた心持を参考までに話しておかう御守とはいへ守は氏子の守神様には只御頼み申し御任せ申せばよい一筋に御頼み申せば驗日日切の事から御理解することま

で生神様が御手引して下さるから心配はなし』

【心に受ける】

新聞や本に出したものを見たばかりでは徳を頂く

事は出来ぬ徳は心に受けるのぢやから心の改りが第一ぢや信心と云ふものはみやすいものであるがまたむづかしいものでとこらのものやら頂がわからぬ 西六高橋先生

【まこと】

人の身に眞の我物は一つもない中に只誠のみが我物であ

る誠の働で君に忠を盡したる勳功や親に仕へたる孝行の徳は金銀を以て買取る事も賣る事も時の代官火の奉行で横取すると云ふ事も決して出来ない其人限りのものであるから他に移すことも譲ることも出来ないこれぞこれ眞に我物と云ふべき唯一つのものである 佐藤先生

【働くが樂】

「隠居とは隠れて居ることぢや隠れて居たらうれまで

ぢや生きて居る間は働かして貰はねばならぬ』と教祖は御理解遊され
たが此御心を斯う詠んで見た「信心は働きてこそ樂しけれ樂は心の苦
みと知れ」近藤先生

【靈驗にはならぬ】 時勢々々と云うて時勢に適ふたばかりでも
神徳を頂かねば靈驗にはならぬ西六高橋先生

【樂そこにあり】 人間は苦勢で生きるのぢや苦があるから人生
に勢がつく樂もろこにあるのぢや近藤先生

【嬉しさが第一】 金光様の御道では「心嬉しさが第一のおかげ』
と教へられてありますいつも有難い心一杯充ちて居れば悪魔が目入を
する魔がさすといふことがありませぬから十分のお蔭も頂けるのであ
ります佐藤先生夫人

編輯者兼
發行者

岡山縣淺口郡三和村大字大谷三番地
金光教徒社

右代表者

山下石太郎

印刷人

安井宇吉

印刷所

岡山市西中山下百五十四番地
山陽新報社

發行所

金光教徒社
大阪振替口座八九八〇



大正三年四月六日印刷
大正三年四月九日發行

編輯者兼

岡山縣淺口郡三和村大字大谷元五番地
金光教徒社

右代表者 山下石太郎

岡山市船頭町八十二番地ノ一

印刷人 安井宇吉

岡山市西中山下百五十四番地

印刷所 山陽新報社

岡山縣淺口郡三和村大字大谷

發行所 金光教徒社

大阪振替座口八九八〇

終